

WELFARE INFORMATION GIFU

福祉だより ぎふ

「岐阜福祉の森 in モレラ岐阜」を開催！

1月18日（月）～21日（木）、今年度5回目となる「岐阜福祉の森」がモレラ岐阜にて開催されました。

今年度の「岐阜福祉の森」は新型コロナウイルスの影響により、感染防止対策を講じたうえで開催して参りました。ご来場の皆様にも感染防止対策へのご協力をいただきました。

ありがとうございました。

手作りお菓子やマスク、日用品など、豊富な障害者就労施設商品が店頭に並びました。



今回は、イオンモール各務原にて開催予定です。詳しくは、P 8をご覧ください。

CONTENTS

2021
2
No.700



- 令和2年度研修事業を終えて…………… P 2
- 地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備に向けて…………… P 4
- “つながり活動” 紹介～可児市社会福祉協議会～…………… P 5
- 岐阜県ボランティア・市民活動フォーラムを開催…………… P 6
- 令和2年度結（YUI）プロジェクト
フードドライブキャンペーン参加機関のご紹介…………… P 7
- お知らせ…………… P 8

研修会の様子については、本誌の令和2年8月号及び10月号で一部ご紹介しましたが、来年度もコロナを意識した運営が求められると考えており、改めて今年度の実施状況についてご紹介いたします。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」）の影響により、実施方式を大幅に変更し講義と個人ワークを中心に開催しました。受講者をはじめ、施設や事業所の皆様には、会場でのコロナ対策やオンライン受講のためのZoom環境の準備など様々な場面でご協力をいただきました。ありがとうございます。

福祉人材部（岐阜県福祉人材総合支援センター）では、福祉の仕事に従事する職員のキャリアアップ・スキルアップを目的とした研修会を開催しています。



図表1 令和2年度研修の4つの実施パターン

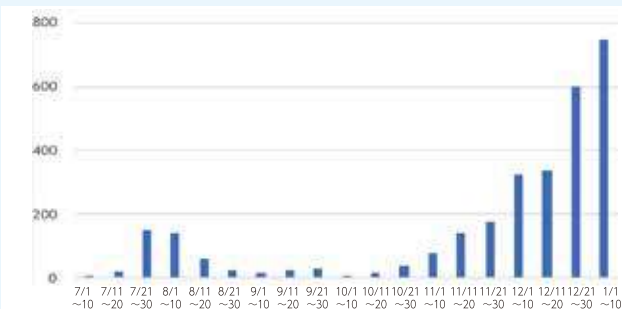
<p>会場集合</p> <p>講師、受講者が一か所に集まる</p>	<p>Zoom併用 会場とZoomを組み合わせる</p> <p><下記パターン> ①講師のみZoom ②講師と受講者の一部がZoom ③受講者の一部がZoom</p>
<p>Zoom限定</p> <p>講師、受講者ともにオンライン</p>	<p>動画配信</p> <p>事前に録画した動画を一定期間配信する</p>

■4つのパターンで研修を実施

従来の会場集合形式の他、Zoomや動画配信など次の4つのパターンで研修を開催しました。（図表1）全国社会福祉協議会のプログラムによる階層別研修「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程」は、全て会場集合形式で開催し、アンガーマネジメントやク

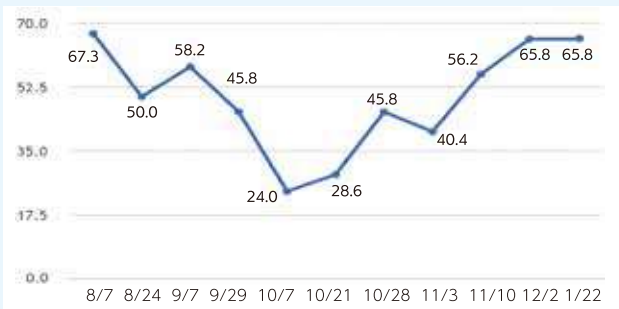
レーム対応などテーマごとに学ぶ「課題別研修」は、Zoomを多く取り入れ、13研修中11研修を「Zoom併用」により開催しました。Zoomの活用は初めての試みでしたが、感染拡大による県内外の移動が制限されていた中でも、研修を延期や中止にせず実施することができ、コロナ禍における新たな研修パターンとなっています。三密を避けるため、会場での受講可能人数を例年の半分程度にせざるを得ない状況でしたが、Zoomを組み合わせたことにより、全体で当初予定していた定員の約6割の受講を確保することができました。さらに「Zoom併用」は、受講方法を会場とZoomから選択することができたため、コロナ禍での心配を幾分か減らすことができ、結果としてより多くの方から受講申込をいただくことにつながりました。受講者全体に占めるZoom希望者の割合が、県内の新規コロナ患者数とほぼ連動して推移していたことから、受講者の意識や職員を送り出す施設や事業所の方針が受講方法の選択に大きく影響したことが分かりました。（図表2、3）

図表3 <参考>岐阜県における新規コロナ患者の推移（人）



※岐阜県ホームページ「岐阜県新型コロナウイルス感染症に関する患者の発生状況」をもとに、本会作成

図表2 受講者全体に占めるZoom希望者の割合（％）



※Zoom併用（受講者が会場かZoomを選択できる）研修のみ

■受講者の反応

研修後の受講者アンケートで、会場でのコロナ対策やZoomでの受講について聞いたところ、次のような結果でした。(図表4) 会場は約80%、Zoomはさらに高い約88%の受講者が「とても良かった」もしくは「良かった」と回答しています。

図表4 受講者アンケートの結果

	会場での対策	Zoom受講
とても良かった	35.0%	31.4%
良かった	44.9%	57.4%
普通だった	14.3%	7.1%
あまり良くなかった	0.9%	3.6%
良くなかった	0.7%	0.6%
無回答	4.2%	0.0%

※令和3年1月開催研修含まず

良かった点として、「マスク着用、入室前の消毒、会場の換気もしており、安心して受講できた」や「グループワークができない中

でも、参加型の研修となるよう工夫されており、他者の意見も聞けて参考になった」、「Zoomのチャット(機能)により意見交換ができたので、質問もしやすかった」などの意見がありました。受講決定通知や当日の配付資料に、

体調管理のお願いや実施するコロナ対策を明記した他、Zoom受講者へ利用方法マニュアルを送付したことによる効果がありました。その一方で、「少人数でも良いので、グループワークがやりた

い」や「Zoom研修に慣れておらず、会場受講者の声がよく聞こえなかったり、発言が上手くできなかった」といった意見もありました。特に、グループワークの再開に関する意見が多く、以前より

高齢、障がい、児童など幅広い福祉施設や事業所を対象とし、分野や圏域を越えた交流を強みとしてきた社協ならではの研修を求め、声をたくさんいただきました。今年度は、個人ワークであったため、個々の発表を会場全体で共有することとなり、時間の都合上、発言できる人数が限られてしまいました。講師から得た学びをより深めるために、受講者間の意見交換を

どのように進めていくか、今後の課題が浮き彫りとなりました。

■令和3年度の研修実施に向けて

今年度実施した4つのパターンは、それぞれにメリットとデメリットがあり、来年度以降の実施にあたっては、コロナの動向や研修の内容、オンライン機器の整備やZoomの操作習熟度を踏まえ検討していく必要があります。

より多くの受講者の意見を取り入れることができるよう、会場であれば紙に書いたものを事務局職員が回収し、講師にまとめて提供したり、Zoomであればチャット機能を使い意見を書き込むなど、限られた時間の中でも積極的な交流ができるよう、工夫していくことが考えられます。

また、グループワークの再開について、Zoomの機能を使う場合は、ブレイクアウトルーム機能を活用し、意見交換やロールプレイなどの実施が考えられます。会場の場合は、コロナ対策の今後の状況を踏まえて判断していく必要があると考えます。

コロナをきっかけに、Zoom

のようなオンラインでの双方向ツールの環境整備やタブレット端末の導入、オンライン会議の開催などを進めている施設や事業所も増えてきており、徐々にオンラインでの研修も増えてくることが予測されます。

本会研修は、これからも県内の施設や事業所の皆様から期待され、職員のキャリアアップ・スキルアップに役立つものであり続けられるよう、努めてまいります。

来年度のはじめを目前に、令和3年度の本会研修のご案内とともに、今回掲載したコロナ禍での研修実施内容等をまとめたレポートをお送りする予定ですので、お知らせします。

お問い合わせ

福祉人材部 研修担当
電話：058-278-1823(研修直通)
メール：
kenshu-center@winc.or.jp

研修情報の確認、申込は本会ホームページ内の「岐阜県研修WINCシステム」をご利用ください。

地域共生社会の実現に向けた

包括的な支援体制の整備に向けて

〔令和2年度相談支援コーディネーター養成研修の開催を通して〕

■背景

我が国は、高齢化や人口減少により、地域・家庭・職場における支え合いの基盤が弱まってきています。また、個人や世帯単位で複数分野の課題を抱え、複合的な支援を要する状況が見られ、従来の対象者別・機能別の制度では対応が困難なケースが増えています。そこで、このような社会構造の変化や人々の暮らしの変化を踏まえ、縦割り行政や「支え手」「受け手」の関係を越えた関係作りを目指す「地域共生社会の実現」を目指して、改正社会福祉法が平成30年4月に施行されました。

その社会福祉法では、第106条第3項が新設され、「包括的な支援体制の整備」として、市町村行政の努力義務が示されました。

■包括的な支援体制の概要

改正社会福祉法の附則においては、国は包括的な支援体制の整備について検討を加え、必要な措置を講ずることになっていましたので、「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関

する検討会（地域共生社会推進検討会）を開催し、令和元年12月に最終とりまとめが公表されました。その最終とりまとめにおきましては、

- ① 本人・世帯の属性にかかわらず受け止める**断らない相談支援**
- ② 本人・世帯の状態に合わせ、地域資源を活かしながら、就労支援、居住支援などを提供するこ
- とで社会とのつながりを回復する**参加支援**
- ③ 地域社会からの孤立を防ぐとともに、地域における多世代の交流や多様な活躍の機会と役割を生み出す**地域づくりに向けた支援**

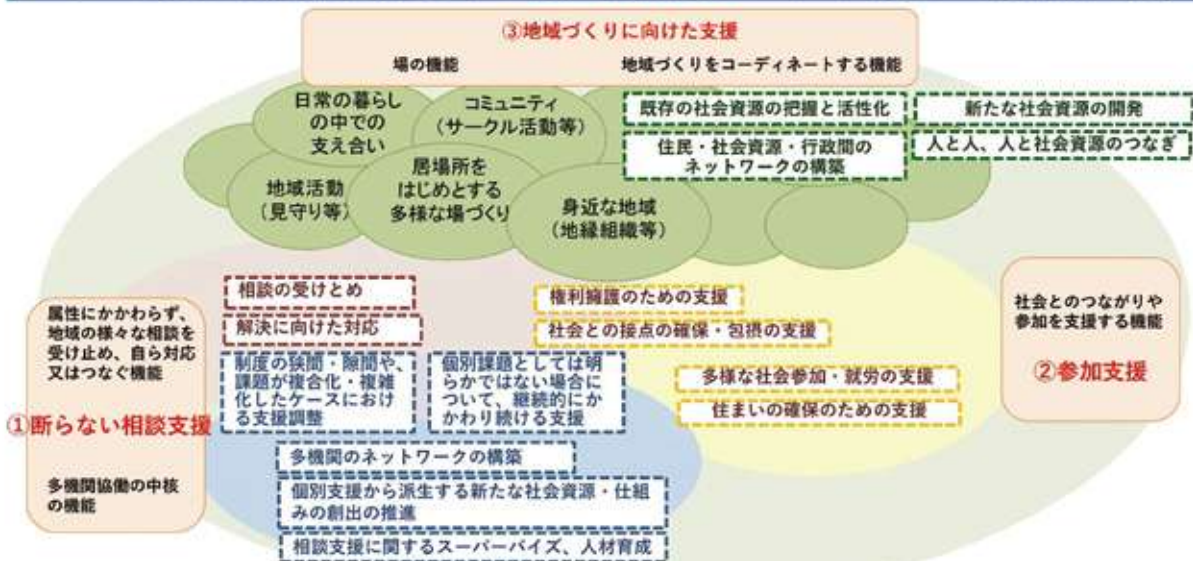
の3つの支援を一体的に行う新たな事業の創設が必要とされました。



▲講義「地域共生社会の実現に向けた取り組み」を行う厚生労働省社会・援護局 地域福祉課地域共生社会推進室

新たな包括的な支援の機能等について

- ◆ 市町村がそれぞれの実情に応じて包括的な支援体制を整備するため、以下の支援を一体的に実施する事業を創設
 - ①断らない相談支援
 - ②参加支援（社会とのつながりや参加の支援）
 - ③地域づくりに向けた支援
- ◆ 本事業全体の理念は、アウトリーチを含む早期の支援、本人・世帯を包括的に受け止め支える支援、本人を中心とし、本人の力を引き出す支援、信頼関係を基盤とした継続的な支援、地域とのつながりや関係性づくりを行う支援である。



▲「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」資料より抜粋

■相談支援コーディネーター養成研修の実施

このような状況の下、本会では、令和2年9月より、市町村が包括的な支援体制の整備を進める「相談支援コーディネーター」を養成するため、岐阜県より委託を受けて、研修会を実施しています。

○研修の概要

・目的

複合的な課題を受け止め、適切な支援につなぐ手法や技術を身に付ける

他機関連携の手法や技術を身に付ける

包括的な支援体制構築のイメージを掴む

・参加者

市町村行政職員（包括的支援体制を推進する）、

相談員（相談機関の中核を担う）84名（35市町村）

・日程

1日5時間×5日

※別途、事後研修会（フォローアップ）あり

・内容

高齢、障害、児童、保健医療、生活困窮、社会保障、権利擁護、刑事司法に関する講義および、他機関連携、ソーシャルワーク、政策立案、社会資源開発、支援



▲研修4日目のお様子
＝大垣市情報工房にて

■今後の展望

体制構築に関する講義・演習 包括的な支援体制の整備における「新たな事業の創設」に関しては、「重層的支援体制整備事業」として、市町村の手法により実施されています。

岐阜県内では、既にいくつかの自治体において、事業を実施し、体制整備が進められている状況です。

本会といたしましても、さらなる体制整備、ひいては地域共生社会を目指して、来年度も継続して本研修を実施する予定です。

お問い合わせ先

岐阜県社協・生活支援部

TEL 058-1274-7143

岐阜県内で取り組まれているコロナ禍における“つながり活動”をご紹介します。今月は可児市社会福祉協議会です。

ラジオ体操でサロンを再開!

サロン宮町(可児市)



兼山地区のサロン宮町では、新型コロナウイルス感染症の流行のため、長くサロンをお休みしていましたが、11月からサロンを再開しました。

サロンお休み中も、スタッフの方々は毎月のように再開のタイミングをはかり、来月こそは！と準備をされていましたが、市内の感染状況が落ち着かず、再開できない日々が続きました。

今までのような茶話会を中心としたサロンは難しいとのこと、スタッフの方々に話し合い、屋外でのラジオ体操をメインにして、サロンを再開することになりました。

元々サロン宮町では、サロンが始まる前に参加者でラジオ体操をすることが習慣となっていたことから、このような形でのサロン再開を考えられたそうです。

場所は地域の公民館隣の駐車場です。ラジオ体操のあとは、陽気が良ければ少しおしゃべりも……。ご近所でも普段は中々お会いしないそうで、お話しも弾みます。

また、参加できなかった方に対しては、スタッフの方がご自宅へお菓子を持って訪問され、安否確認をしてくださっています。

岐阜県内他の社会福祉協議会における“つながり活動”については、岐阜県社会福祉協議会ホームページに掲載しております。随時、ホームページに掲載する活動記事を募集しております。ぜひ、ご応募ください。

「協働」が生み出すボランティア・市民活動の可能性

岐阜県ボランティア・市民活動フォーラムを開催

去る12月3日、「岐阜県ボランティア・市民活動フォーラム」を開催（オンライン）し、県内の約250名のボランティアや市民活動者が参加しました。このフォーラムは「協働」をキーワードに、3つのボランティア・市民活動団体の実践レポートと大阪ボランティア協会 理事長 早瀬 昇氏の講演を行いました。その概要について報告します。

※当フォーラムは、昨年度まで「岐阜県ボランティア・市民活動フェスティバル」という名称で開催していました。

実践レポート①

「ICTを活用した子どもの学習支援ボランティア」
 （島根県）てこほ〜む
 代表 足立 元さん

「てこほ〜む」では、島根県にある島根大学医学部の学生が中心となり、中学生・高校生を対象とした学習支援を行っています。

現在は、新型コロナウイルス感染症拡大により、Zoomを活用しています。

また、市内で多文化共生を進めるNPO法人と協働し、ブラジルにルーツがあ



▲コロナ禍における学習支援の様子

「てこほ〜む」では、空き家となった民家を活用し、地域の子どもからお年寄りまで、みんな



▲コロナウイルス感染拡大前の子ども食堂の様子

る子どもも一緒に学校の課題を学んでいます。

協働を通して、コロナ禍においても新たなつながりが生まれ、地域のあらゆる方とつながりをもつきっかけになっています。

実践レポート②

「空き家を活用した地域の居場所づくり」
 （東京都）NPO法人居場所コム
 （てこほ〜むのち）
 理事長 秋元 康雄さん

「てこほ〜む」

では、空き

家となった

民家を活用

し、地域の

がゆるくつながり、気軽に集える「居場所」を提供しています。

また、地域でテーマ別（子育てサロン、高齢者サロン等）の活動をされているボランティア団体と協働することにより、同じ時間に隣り合うスペースでプログラム活動が実践されています。協働をとおして、各活動における参加者同士の交流や助け合いが生まれています。

実践レポート③

「障害のある人にとって住みよい町であるために」
 （岡山県）NPO法人なでしこ会
 事務局員 杉山 ゆいさん

「なでしこ会」では、地域活動支援センターとして障がいのある方に、日常生活の支援や作業訓練、ふれあいの場の提供を行っています。

人口減少により、地元商店の閉店が相次ぐなか、地域で暮らす住民はもてるんのこと、障がいのある方にとっても住みにくい町になっていくと懸念されます。そこで、福祉関係者や地元町内会などと協働し、お祭り等のイベント開催を行っています。

地域の関係

団体と協働し、

イベントの企画・運営を行

うことで日頃から、なでしこ会と地域住民との交流が



▲コロナウイルス感染拡大前のお祭りの様子

生まれました。なでしこ会にとっても障がいのある方の現状を地域住民へ伝える機会となり、誰もが住みやすいまちづくりに繋がっています。

実践レポート④

「多様な協働が生み出す地域力 ぐつながらと地域はもっと良くなる」
 大阪ボランティア協会
 理事長 早瀬 昇氏



▲早瀬 昇氏による講演の様子

現在、地域社会には様々な課題があり、課題解決のためには、ボランティア・市民活動団体においても、多様な主体（団体・企業・行政等）と協働することが求められています。

協働では、それぞれの団体の弱みを認め合い、補い合うことで創造効果が生まれ、新たな活動展開が期待されることです。

また、協働する人々の内側から「やる気」が高まるための3つの要素として、①自立性を高める（自己決定）②熟達できる状況をつくる（やる気↓できるではなく、できる↓やる気）③大きな目的につながる環境を作る（行動の意味づけ）が鍵となります。

私たちの暮らす地域の様々な課題を知り、課題の解決に向け、多様な主体が協働することで、地域に暮らす誰もが住みやすいまちになっていくということを学ぶ機会となりました。

令和2年度「ぎふ社会福祉法人地域公益実践推進事業(結(YUI)プロジェクト)」

フードドライブキャンペーン参加機関のご紹介

本会では、地域における食糧支援の取り組みを推進することを目的に、標記キャンペーンを実施しています。キャンペーンは、昨年度に引き続き実施するものですが、本年度は特に緊急性の高い地域課題として、「コロナ禍で急増する生活困窮者の実態」が考えられることから、生活困窮者の命や生活を守る取り組みとして実施しました。

下記の3団体では、「社会福祉法人の公益的取組」として本キャンペーンに参加され、収集した食料を生活困窮者に関する支援等に活用されています。

○土岐市社会福祉協議会

- ・フードドライブに関するチラシを作成し、町内回覧、ホームページへの掲載、職員・関係者への配布を行った。

○本巣市社会福祉協議会

- ・フードドライブについて、広報誌やホームページ、SNS等を活用し、市民、職員に対して呼びかけを行った。
- ・フードドライブに関するチラシを作成し、民生委員、各ボランティアに配布の協力依頼を行った。

○白川町社会福祉協議会

- ・フードドライブについて、社協だよりに掲載、町民、職員に呼びかけを行った。

※上記の他にコロナウイルス感染拡大の影響を受け、防災訓練等の開催ができなかった自治体等からも「アルファ米」などのご寄付をいただきました。
ご協力ありがとうございました。

本キャンペーンは、一時的な取り組みですが、こうした機会をきっかけに、県下社会福祉法人が一丸となり、様々な生活課題にアプローチする機運を高めていきたいと考えています。

今後ともよろしくお祈りします。



<本巣市>



<白川町>



「ぎふ社会福祉法人地域公益実践推進事業」

フードドライブキャンペーン にご協力ください!

～もったいないをあげよう～

「期限までに食べ切れそうにない」「たくさんもらって余っている」など、
ご家庭に眠っている余剰食品があれば、ぜひお持ちください

ご家庭に眠っている食品はありますか?

この機会に賞味期限食品の賞味期限をリセットしませんか?

「フードドライブとは?」

●受付期間
2020年11月9日(月)～12月18日(金)
8時50分～17時15分

●受付場所
本巣市社会福祉協議会 各窓口

●実施の流れ
各家庭 → 社協 → フードバンク → 福祉施設・高齢者施設

●問い合わせ先 本巣市社会福祉協議会 地域福祉課
生活支援係 Tel 058-320-0531

結プロジェクト「くらすXまわす」Network

福祉の仕事ミニ就職フェア(東濃地域、飛騨地域、郡上市)

開催のお知らせ

岐阜県福祉人材総合支援センターでは、福祉・介護の仕事に関心がある方を対象に、「福祉の仕事ミニ就職フェア(東濃地域、飛騨地域、郡上市)」を開催します。

今回は、イベント形式ではなく、開催期間(令和3年2月22日~3月19日)に設置する特設ページで福祉施設・事業所の採用情報をご紹介します、さらにZOOM等を使用して、採用担当者の方とオンライン上で面談できる場を提供します。

東濃地域、飛騨地域、郡上市の介護・福祉の施設・事業所に関心のある方は、お気軽にセンターまでお問合せください。

★現在、特設ページを作成中です!

特設ページへは岐阜県福祉人材総合支援センター

ホームページ

めざせ!福祉のお仕事

検索

からお願いします。

お問い合わせ

岐阜県社会福祉協議会 岐阜県福祉人材総合支援センター

岐阜県岐阜市下奈良2-2-1 岐阜県福祉・農業会館 3階

URL: <https://www.winc.or.jp/contents/job/>

TEL: 058-276-2510

メール: kyujin@winc.or.jp

障害者就労施設商品展示販売会

「岐阜福祉の森」開催のお知らせ

毎回、ご好評をいただいております障害者就労施設商品展示販売会「岐阜福祉の森」ですが、第6・7回について、感染防止対策を講じたうえで下記のとおり開催いたします。

岐阜県内の障害者就労施設で取り扱う食品や雑貨、日用品などを取り揃え、みなさまのお越しをお待ちしております。

※この販売会は赤い羽根共同募金の配分金により開催しております。

第6回

日時: 令和3年2月16日(火)~2月19日(金)
10:00~17:00(最終日のみ10:00~16:30)
会場: イオンモール各務原 1階 センターコート

第7回

日時: 令和3年2月25日(木)~3月2日(火)
10:00~17:00(最終日のみ10:00~16:30)
会場: マーサ21 さくらパーク



※写真は前年度開催の同イベント(場所は異なります)

※新型コロナウイルス感染状況に伴い、予定の販売会が中止となる場合もございます。

お問い合わせ先

岐阜県社会福祉協議会 施設福祉部 (担当: 飯田)

〒500-8385 岐阜市下奈良2-2-1 TEL 058-201-1562

ありがとうございました!

株式会社敬愛様より寄附

12月15日、株式会社敬愛(マックスグループ)様へ感謝状を贈呈いたしました。

株式会社敬愛様は、社会貢献活動の一環として「1円チャレンジ」(毎月1回、来店者数×1円を寄附)という取り組みをされており、平成26年6月より本会へ毎月継続して寄附をいただいております。

寄附金は、地域福祉の増進のため、本会事業において有効に使わせていただきます。



▲株式会社敬愛 営業部 田中ブロック長(右)と
県社協 小林常務理事(左)=県福祉・農業会館

*本誌に対してのご意見、ご要望等ございましたら、下記までお寄せください。

発行所 社会福祉法人 岐阜県社会福祉協議会 〒500-8385 岐阜県岐阜市下奈良2-2-1

TEL(058)201-1545 FAX(058)275-4858 ホームページアドレス <https://www.winc.or.jp/> 購読料30円は会費に含む 毎月1回・15日発行